

先人の教えを「伝承」する

一橋大学大学院法学研究科 准教授 阿部 辰雄

私が奈良で経験した一番衝撃的な出会いは、岡本彰夫先生との出会いでした。当時私は、新たな「まつり」の立ち上げに際し、その意義の設定に大苦戦していました。そこで岡本先生にご相談すると、すぐさま「立山やナ」とおっしゃられ、理由をご説明くださりました。その一つ一つが、奈良を深く知る岡本先生ならではの筋の通ったお話で、初対面ながらも「このお方タダものではない」と感じました。その後、この「まつり」は奈良に古くから伝わる「立山」を中心に、奈良県内の伝統的なまつりを平城宮跡で披露していただく、というものになりましたが、その一つ一つのお祭りにお声がけする際も、岡本先生から懇切丁寧にご指導いただき、大過なく終えることができました。忘れられない思い出の一つです。

今回ご紹介するのは、そんな岡本先生の著書である『日本人よ、かくあれ—大和の森から贈る、48の幸せの見つけ方』岡本彰夫／文、保山耕一／写真、株式会社ウェッジ、1,760円



『日本人よ、かくあれ—大和の森から贈る、48の幸せの見つけ方』岡本彰夫／文 保山耕一／写真 株式会社ウェッジ

です。春日大社の神職として長い間ご奉仕されるなど、奈良の奥深いところに触れたご経験から、今の世の中に感ずることを、岡本先生ならではのユニークさで書かれています。タイトルだけ読むと、堅苦しい本のように

思えますが、故郷や家族・友人、自分の職業に誇りをもって毎日を暮らしていくためにはどうしたらよいか、先人たちの教えを分かりやすく解きほぐすことによって伝えてくれます。『言葉の持つ「調べ」の美しさ』、『職人の持つ誇り・修練・真心の三箇条』、『「無駄」の大切さ』、など心に響く48のエッセイで構成されています。

私が興味深かったのは、竈炊きご飯の話です。竈炊きご飯など一昔前は誰でもできて当たり前のことでした。しかし、炊飯器の普及とともに、炊ける人はどんどん少なくなっています。「一番伝承が難しいのは、みんなが知っていることなのである」岡本先生はこれにおっしゃっています。

奈良の魅力は社寺を中心とした「祈り」の文化が、1000年以上途切れずに続いていることです。春日若宮おん祭りの田楽も、談山神社の米御供も遠い昔から続けられています。その中には、私たちが暮らしていく上でのたくさんさんの教えが込められています。

昨今、「昭和」を悪いものとして捉え、これを変えていこう、という言説が目立ちます。もちろん、悪習は見直すべきですが、昭和も平成も令和も、長い歴史の中で見れば、先っぽのほんの一部です。そして、昭和の先人たちの頑張りが、今の日本を支えているのも事実です。流行に流されず、大きな視点で、先人の教えを伝承しつつ前に進んでいくことが大事なのだなあと、改めて思いました。